

■本資料のご利用にあたって(詳細は「利用条件」をご覧ください)

本資料には、著作権の制限に応じて次のようなマークを付しています。
本資料をご利用する際には、その定めるところに従ってください。

*****: 著作権が第三者に帰属する著作物であり、利用にあたっては、この第三者より直接承諾を得る必要があります。

CC: 著作権が第三者に帰属する第三者の著作物であるが、クリエイティブ・コモンズのライセンスのもとで利用できます。

: パブリックドメインであり、著作権の制限なく利用できます。

なし: 上記のマークが付されていない場合は、著作権が東京大学及び東京大学の教員等に帰属します。無償で、非営利的かつ教育的な目的に限って、次の形で利用することを許諾します。

- I 複製及び複製物の頒布、譲渡、貸与
- II 上映
- III インターネット配信等の公衆送信
- IV 翻訳、編集、その他の変更
- V 本資料をもとに作成された二次的著作物についての I からIV

ご利用にあたっては、次のどちらかのクレジットを明記してください。

東京大学 UTokyo OCW 朝日講座「知の冒険」
Copyright 2015, 吉見俊哉

The University of Tokyo / UTokyo OCW The Asahi Lectures “Adventures of the Mind”
Copyright 2015, Shunya Yoshimi

東京大学朝日講座 2015
2015年10月12日

新聞報道についての 「歴史的事実」と公正性 —大学とメディアはいかに媒介されるか？—

東京大学大学院情報学環
吉見俊哉

文科省が国立大文系学部廃止を通知？

- 5月28日 産経「人文社会科学や教員養成の学部・大学院の規模縮小や統廃合などを要請する通知素案」(産経)
- 6月 8日 朝日「文学部や社会学部など人文社会系の学部と大学院について、社会に必要とされる人材を育てられていなければ、廃止や分野の転換の検討を求めた」
- 6月19日 毎日「今、国立大学の『文系』に消滅の危機が迫っている。文部科学省が、全国の国立大学に対し、人文社会科学系や教員養成系の学部・大学院について、廃止や他分野の転換を求めているからだ」
- 6月25日 東京「人文社会系『改廃』強要、大学の権力批判封じ込めが目的か」
- 7月23日 日本学術会議 反対声明
- 7月29日 日経「大学を衰弱させる『文系廃止』通知の非」(社説)
- 8月4日 ウォールストリートジャーナル記事
“Japan Rethinks Higher Education in Skills Push : Liberal arts will be cut back in favor of business programs that emphasize research or vocational training”
- 8月23日 読売:「文系学部のある全国の国立大60校のうち、半数近い26校が2016年以降、文系学部の改廃を計画している」
- 9月9日 経団連(日本経済団体連合会) 声明

1年前にもまったく同じ通知が……

2015年6月8日

←大反論

「国立大学法人等の組織及び業務全般の見直しについて」

- ① 「ミッションの再定義」で明らかにされた各大学の強み・特色・社会的役割を踏まえた速やかな組織改革に努めること
- ② 特に教員養成系学部・大学院、人文社会科学系学部・大学院については、18歳人口の減少や人材需要、教育研究水準の確保、国立大学としての役割等を踏まえた組織見直し計画を策定し、組織の廃止や社会的要請の高い分野への転換に積極的に取り組む

2014年8月4日

← 反応なし

「国立大学法人の業務及び組織の見直しに関する視点」

「(『ミッションの再定義』を踏まえた速やかな組織改革として)特に教員養成系学部・大学院、人文社会科学系学部・大学院については18歳人口の減少や人材需要、教育研究水準の確保、国立大学としての役割等を踏まえた組織見直し計画を策定し、組織の廃止や社会的要請の高い分野への転換に積極的に取り組むべき」

2000年頃から始まっていた流れ

国立大学の構造改革の方針(2001年6月)

1. 国立大学の再編・統合を大胆に進める
 - ・ 教員養成系などの規模縮小・再編
 - ・ 単科大(医科大、教育大等)の他大学との統合
2. 国立大学に民間的発想の経営手法を導入する
3. 大学に第三者評価による競争原理を導入する

国立大学法人化後の現状と課題について(2010年7月)

- 法人化以降、常勤教員の人件費は減少し、非常勤教員の人件費が急激に増加【不安定化】
- 人文学分野の教員数は、H.10～H.19 で私立大学は7.8%増加したのに対し、国立大学は11.4%一貫して減少【国立文系の弱体化】
- 共同研究、競争的資金の獲得額、科研費の獲得額等は大幅増【守銭奴化】
- 研究時間、論文の数は大幅減、基礎研究力の劣化が顕著【研究力崩壊】

なぜ、今夏になってメディアは「炎上」？

1. 安保関連法案＋日の丸・君が代＋新国立競技場＋文系学部廃止＝現代の焚書坑儒？
2. 文科省主導の改革が何を目標しているのかについての理解・合意形成の欠如
3. 「文系学部で学んだことは役に立たない（金にならない）」という国民一般の「常識」？

「通知」批判の問題点

- 「人文社会系」と「教養教育」「リベラルアーツ」の混同
- 「文系」は、役に立たなくても大切？
→「役に立つ」とはということか：「手段」と「目的（価値）創造」

「短く役立つ」理工系と「長く役立つ」人文社会系

人文社会系と教養は同じでない

- リベラルアーツ(中世起源)

文法学、修辞学、論理学、代数学、幾何学、天文学、音楽学
(言葉の学＝文法、レトリック、論理／数の学＝代数、幾何、天体)
⇒ 哲学による統合:「PhD」の「Ph」

- 教養(近代起源 Culture/Bildung - Kultur)

- 一般教育(20世紀米国起源 General Education)

- 共通教育(大綱化以降、全学的基礎教育の再構築)

- スキル教育(コンピュータ、英語)

- コンピテン^ス:活用能力＝単なる記憶ではなく活用能力

「役に立つ」とはどういうことか？

目的に対する手段として「役に立つ」こと

＝目的遂行的(＝手段的有用性)

目的・価値を創出することで「役に立つ」こと

＝価値創造的(＝価値反省的)

手段的有用性は、与えられた目的に対してしか、「役に立つ」ことができない。

→目的についての価値尺度が変わると「役に立つ」という合意は消える

- なぜ、ソニーはアップルになれなかったのか？
- 東京五輪2020の混迷 ← 東京五輪1964の価値軸の継続「速く、高く、強く」
⇒新しい価値軸としての「ゆっくり、末永く、愉快地に」

価値創造的：変化する多元的な価値の尺度を視野に入れる力

「理工系＝短く役に立つ」(3～5年)

「文系＝長く役に立つ」(20年～1000年)

学部名のカンブリア紀的爆発

- 1975: 69種(微増、人間科学部、総合科学部...)
- 1980: 78種(微増、経営情報学部、国際関係学部...)
- 1985: 80種(微増、国際政治経済学部...)
- 1990: 97種(微増、国際文化学部、環境情報学部...)
- 1995: 145種(約50種増、コミュニケーション学部、コンピュータ理工学部...)
- 2000: 235種(約100種増、アジア太平洋マネジメント学部、観光学部...)
- 2005: 360種(約130種増、21世紀アジア学部、ソーシャルワーク学部、社会イノベーション学部、バイオサイエンス学部、リハビリテーション学部、ヒューマンケア学部、健康プロデュース学部、ライフデザイン学部、デジタルコミュニケーション学部、ホスピタリティ・ツーリズム学部...)
- 2010: 435種(約80種増、シティライフ学部、フロンティアサイエンス学部、マンガ学部、現代ライフ学部、グローバル・メディア・スタディーズ学部...)
- 2015: 464種(約30種増、ポピュラーカルチャー学部、アニメーション文化学部、モチベーション行動学部...)

➤ **2010年代、カンブリア的大爆発の時代は終わった → 淘汰へ**

➤ **「方法」の学部から「領域」の学部へ、そして「広告コピー」の学部へ**

「化粧」と「進化」の間で

新学部等の主な5つのフィールド

- ①健康・福祉・看護系:きわめて多い
- ②経営・マネジメント系:リスクマネジメント、グローバル経営...
- ③情報・デザイン系:、デザイン、表現、知的財産、生体情報...
- ④地域・観光系:観光、まちづくり、コミュニティ...
- ⑤国際・グローバル系:グローバル・コミュニケーション、安全保障...

← 高齢化、グローバル化、ローカル化、情報化、マネジメント

実学的応用性の強調←大学へ行くこと自体の価値劣化

その場しのぎの人気取り、延命のための軽薄な学部・学科名、表面の化粧と中味の空洞化

← 大学の組織構造を保ったまま、組織維持のために表面の化粧を時代に合わせて変化させて急場をしのぐ

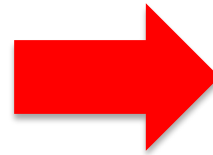
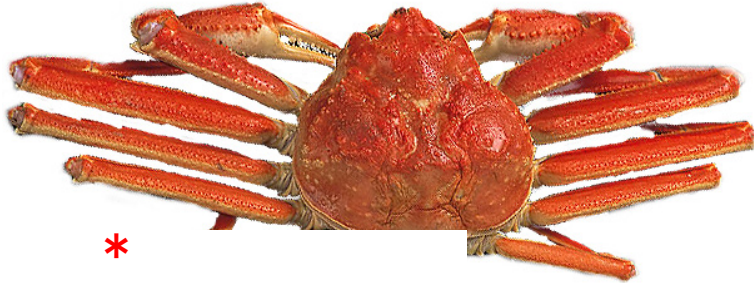
甲殻類の大学を「守る」5つの壁

- I. 入試の壁：高校生活後半を投入するが、壁を超えた先はわからない ⇒「カリキュラム・ギャップ」の解消を！
- II. 就活の壁：大学生活後半を投入するが、壁を超えた先の保証はないなし ⇒「キャリア・ギャップ」の解消を！
- III. 学年の壁：学年ごとの進級（高校までと同じ）⇒単位の組み合わせによる「学位プログラム」の構造化を！
- IV. 学部の壁：一部の共通科目、他学部聴講以外に、全学的な教育の仕組みがない ⇒全学横断型教育プログラムの支援！
- V. 言語の壁：日本語への鎖国化＝海外大学との互換性欠如＝「チューニング・ギャップ」

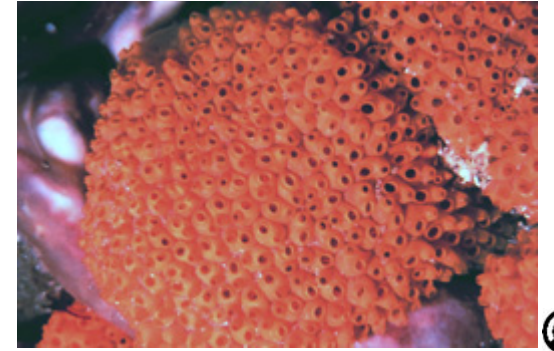
「壁」で守られていることの弱さが自覚されにくい

⇒内部の（伝統）継承の論理を優先

甲殻類から脊椎動物への「進化」？



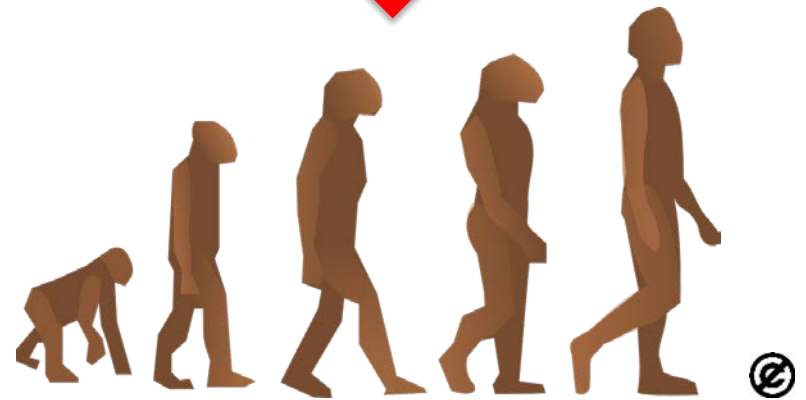
脊索動物



From Wikipedia



© Hans Hillewaert / CC-BY-SA-4.0



甲殻類



21世紀の宮本武蔵を育成する

各分野における専門教育×諸分野の横断・融合

←横断型プログラム～副専攻～ダブルメジャー

文系A学

文系B学

理系C学

理系D学

文系重点型学際人

理系重点型学際人

脱領域型専門人

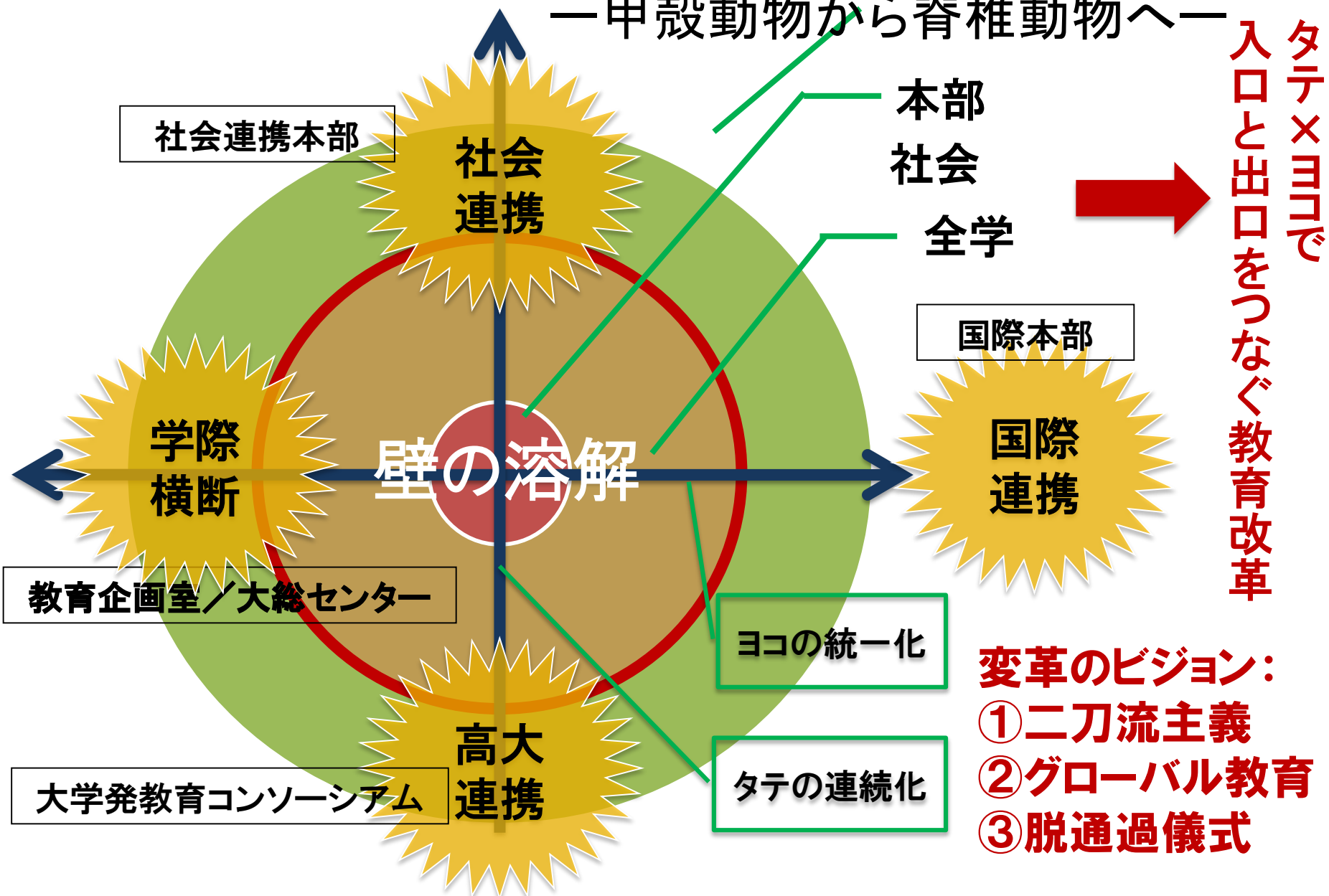
複雑で流動的な世界

宮本武蔵(1584頃～1645): 詳細は不明。伝説も多くは後代の創作
『五輪書』: 1本の長太刀は、接近戦に不向きであり、狭い場所では不利となり、何より長い得物に頼ろうとする心がよくない



大学の再定義←タテの連続×ヨコの横断

—甲殻動物から脊椎動物へ—



東京大学が展開するオンライン教育

全学授業
カタログ

MOOCs

村山 斉
藤原 帰一
山内 薫

UTokyoX / Visualizing Postwar Tokyo, Part2

e-TEXT

OCW

東京大学学術俯瞰講義
<http://www.gfk.c.u-tokyo.ac.jp/>

TodaiTV

東大TV <http://todai.tv/>

*

・ピケティ東大講義

「21世紀の資本」

2014年12月
東京大学 伊藤隆慈ホール

マイケル・サンデル
アウンサン・スーチー
トマ・ピケティ

小柴昌俊
小宮山宏
佐々木毅



UTokyo OCW の歩み

2005.4 学術俯瞰講義スタート

2006 UT-OCW スタート

2008 Todai-eTEXT開始(著作権管理システム運用開始)

2011.10 UT-OCWのシステム変更に着手

2012.10 名称をUT-OCWからTodai-OCWに変更

2012.11 Todai-OCW のiOS対応開始

2013 eTEXTおよび著作権管理システム貸出を予定

公開講義数(2014.08.12)

— 講義シリーズ	110
— 講義公開数	1243
— 講義資料(日本語)	967
— 講義資料(英語)	571
— 講義映像(日本語)	452
— 講義映像(英語)	26

正規科目
授業

150万ヒッ
ト/月

5万人/月

The screenshot displays the UTokyo OCW website interface. The top navigation bar includes the OCW logo and a search bar. The main content area features a welcome message in Japanese, a 'PICK UP' section highlighting specific courses like 'Adventures of the Mind' and 'Global Focus on Knowledge', and a 'What's New' section listing recent course additions. A sidebar on the right contains links to 'USER GUIDELINES', 'FAQ', and 'FOR HIGH SCHOOL'. The bottom section shows a list of courses with details such as course number, title, and instructor.

MOOCs への展開

- 2013.2 コーセラとMOOC配信に関する協定を締結
- 2013.9 村山斉教授によるFrom the Big Bang to Dark Energy 開講
藤原帰一教授によるConditions of War and Peace 開講
世界150以上の国と地域から8万人以上が登録し、約5,400人が修了
- 2014.2 edX とMOOC配信に関する協定を締結
- 2014.8 五十嵐健夫教授による Interactive Computer Graphics 開講
- 2014.11 吉見俊哉教授による Visualizing Postwar Tokyo 開講
- 2015.2 神取道宏教授による Welcome to Game Theory 開講

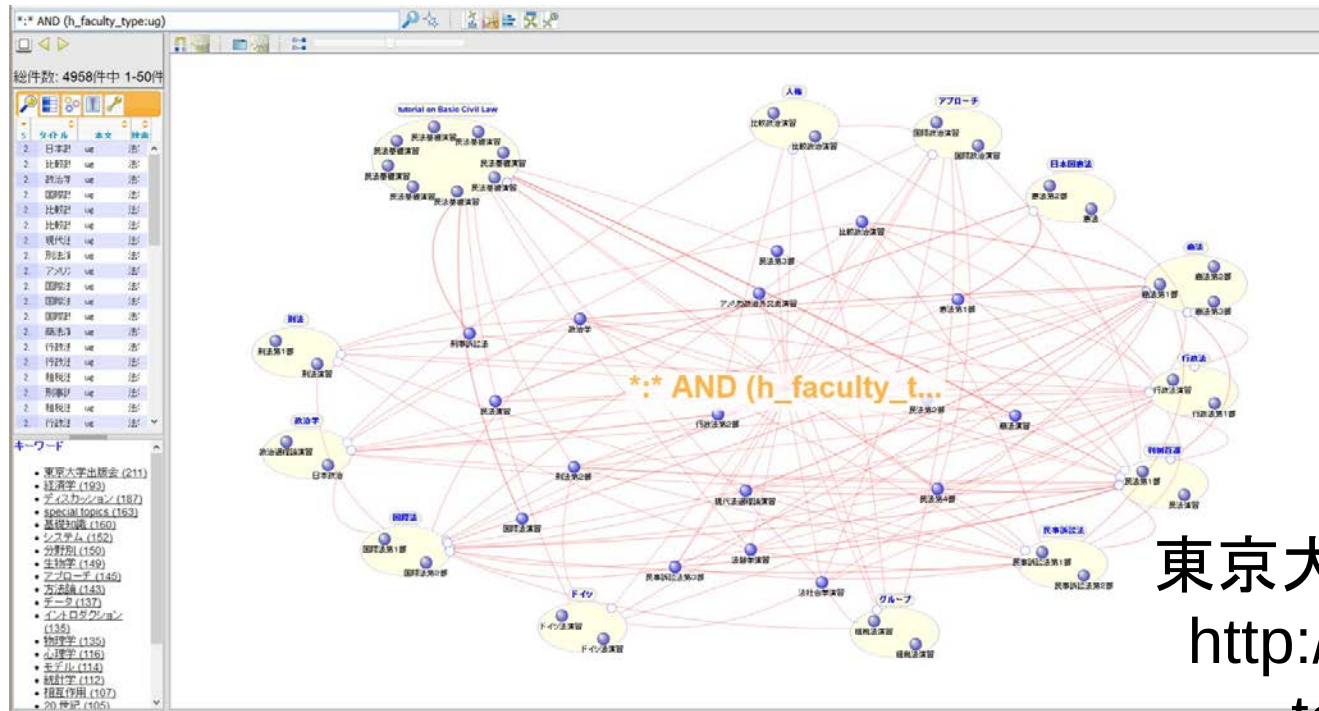
- 
- 6コースの累計受講者数21万人以上、修了者数1万人以上
 - 1コース数万人規模の海外受講者への授業配信
 - 学内の教育・研究活動への貢献
 - 先導する研究分野の認知向上(実施例:カブリIPMU)
 - 留学生プログラムの認知向上(実施例:理学部GSCへの誘導)
 - MOOCコンテンツを利用した留学生向け授業(実施例:ITASIA)



Coursera: 1200万人
edX: 300万人

- × 高等教育コンテンツ生産の集中化
- × グローバルな超高度人材リクルート
- 学習資源＋学習プロセスの再組織化
- △ 劇場の時間／テレビの時間／携帯の時間

シラバスの統一と全学授業カタログの公開



東京大学授業カタログ
<http://catalog.he.u-tokyo.ac.jp/>

著作権等の都合により、
ここに挿入されていた記事画像を削除しました。

「授業検索システムを一新 東大」
2012年6月14日 読売新聞朝刊

「印刷vs大学」から「ネットvs大学」へ

16～18世紀

出版産業(本・雑誌)→読者市場



19～20世紀

新聞産業→購読者／国民



20世紀

放送産業→視聴者／国民



マスメディア型社会の終焉



人間は、賢くなるか？

中世的大学
(教室で伝授されるラテン語知識)
←
旅する知識人
(教師＋学生)

【近代出版産業】
知識人Ⅱ著者
>
大学教授Ⅱ教師
【中世的大学】

ネット社会 > 大学の危機